

112 市川家の石造大日如来

いちかわ け せきぞう だいにちによらい



指 定 市有形文化財 昭和61年 9 月10日
所在地 布 施
所有者 市 川 豊



市川家の西側丘上に造立されたほぼ等身大の大型石仏であって、印相により金剛界大日如来と判断できるが、特異なのは裸像に造像されていることである。寛文12年（1672）正月、市川氏により建立されたことが、背面に銘記されている。寛文時代は庶民による石仏造立の幕明けである。台座は木鉢型に造られた蓮座であるが、蓮弁はすべて省略されている。着衣の無い裸体仏造立は、あり得ないが削面底地を東西に貫流する五郎兵衛用水の要地に造立されていること、同用水が完成して間もない時代に造立されたこと、何時でも入水可能な姿（裸体）に造像されていること等から見ても五郎兵衛用水の守護仏として造立されたものと考えられている。

法量は、像高82cm、頂～顎22.5cm、面幅25cm、膝張り60cm